

コリント人への手紙第二 第12章 9節

2020年初頭から広がり始めた新型コロナウイルス事象は、人の弱さ、傷つきやすさ、痛みを地球上に露わにする。感染症の拡大に歯止めがかからず、世界は厳しい状況のまま日一日を過ごしている。手のほどこしようもない状況にある。これまで見えなかった世の、社会の、個人の脆さの実態を映し出すレントゲンとなっている。

高齢者、障害をかかえる者、既往症を持つ者、身体的弱さにある者たちが感染症の犠牲となっている。他方、体力に比較的自信がありそうで、無頓着な人たちは、強さを誇りながら感染症拡大の一因になっているようだ。そして、強さを誇る者たちもいつの間にか病魔に襲われ、あっという間に尊い命を失っている。

世界を見ると、感染症についての情報さえなく、また、たとえラジオなどで情報を得ても予防し、治療する手段がほとんどない状況にある。無防備なままウイルスにさらされてしまう危険がある。他方、情報過多、物質過多、組織を作り上げ過重とさえ思わせる国々が騒ぎたつ。

外なる有様を見、うちなるところとの闘い方を失いつつある。弱さに現れる主の恵みとは何か問う。